

ボーリング柱状図

調査名 市道学園通線(田尻)地質調査業務委託

ボーリングNo 50303109001

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	No.1 (NO.57+2.8, L-11.7m)		調査位置	福岡市西区大字田尻地内			北緯	33° 35' 13.78"								
発注機関	福岡市 道路下水道局 建設部 西部道路課			調査期間	平成 26年 5月 17日 ~ 26年 7月 15日			東経	130° 14' 48.33"							
調査業者名	株式会社長谷川地研 電話 (092-661-1121)		主任技師	和氣壯助		現場代理人	和氣壯助		コ 鑑 定 者	和氣壯助		ボーリング責任者	古賀修次			
孔口標高	H=1.00m	角	180° 上 90° 下 0°		方 向	北 0° 270° 西 180° 東 90° 南		地盤勾配	鉛直 90° 水平 0°		使用機種	試錐機 YBM-05		ハンマー落下用具	半自動型	
総掘進長	11.45m										エンジン	ヤンマー NFAD8		ポンプ	GP-5	

標尺 (m)	層高 (m)	厚度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記 事	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験				N 値	原位置試験 深 度 (m)	試験名 および結果	試料採取 深 度 (m)	試料採取 番号	室内試験 ()	掘進 月 日
										10cmごとの 打撃回数	0	10	20							
0.70	0.30	0.30		表土	暗茶			農耕土。シルト質砂。腐植土含有。シルト分を多く含む中間土。細砂~中砂を主体とし、深度2.5m付近までは5mm以下の細礫を少量含む。	6/6 0.60	1.15	1	1	2	1.7						
1				シルト質砂	暗黄灰、暗灰		非常に緩い	深度2.5m以深は細砂が主体となり、下方へシルト分が多くなる。含水量が多い。少量の貝殻片を混入する。		1.50	1	1	2	2						
2										2.15	1	1	2							
3										2.45										
4										3.15	1		1	1		3.00	T1-1	T	物理三軸CD圧密	
5	-4.10	4.80	5.10					深度4.5m以深はシルト分が非常に多い。		3.45										
6				シルト混じり砂礫	淡茶灰		中位、密な	5~20mmの礫を主体とし、最大径は50mm程度を確認。礫種は花崗岩類や結晶片岩類よりなる。礫間はシルト混じり砂で充填され、粒径不均一。含水量は中位~やや少ない。		4.15	1	1	2	2		3.80				
7										4.45										
8	-7.00	2.90	8.00							5.15	4	8	13	25		5.15	P1-1	-	密度含水比	
9				シルト混じり砂礫	褐灰		中位、密な	5~20mmの花崗岩礫や結晶片岩礫を主体とする。礫間はシルト質砂で充填され、含水量は中位。上層と層相が類似しているが、全体に褐色を帯びるほか、結晶片岩礫の一部に軟質なもの認められる。		5.45	10	13	15	38		5.45				
10										6.15	10	13	15	38						
11	-10.45	3.45	11.45							6.45	10	12	13	35						
12										7.15	10	12	13	35						
13										7.45										
14										8.15	11	10	9	30						
15										8.45										
										9.15	8	7	6	21						
										9.45										
										10.15	14	11	12	37						
										10.45										
										11.15	8	7	7	22		11.15	P1-2	-	密度含水比	6/6
										11.45					11.45					6/6